

Q: パソコンを使うことで授業がどのように変わるのですか？

パソコン等のICTを活用して、例えば、次のような授業が行なわれます。

一斉学習

一人一人の考えを即時に把握しながら双方向的に授業を進めます。



個別学習

デジタル教材などにより、一人一人に応じて学習を進めます。



協働学習

共同作業を通じてリアルタイムで考えを共有しながら学び合います。



小中学校では、令和3年度（2021年度）から、全学年で1人1台パソコンを活用した授業が始まります。

令和4年度（2022年度）には、中学校でパソコンを活用した授業を受けてきた生徒が高校に入学します。

国のGIGAスクール構想により、令和元年度（2019年度）から令和2年度（2020年度）において、各小中学校に、パソコンが整備されています。

令和3年度（2021年度）から、小中学校ではパソコンを使って、普段から授業を進めることとなりました。



令和4年度（2022年度）には、中学校でパソコンを使った授業を実施してきた生徒が、高校に入学してきます。

1人1台パソコン環境で学んできた生徒が高校に進学しても切れ目なく同様の環境で学べるよう、道立高校でも、パソコンを効果的に活用した授業を実施します。

ICT活用で「学びの深化」「学びの転換」へチャレンジ

Q: 新型コロナウイルス感染症などで休校になったときの学習はどうするのですか。

A: ICTを活用した新たな学びでは、生徒が入学から卒業まで、学校・自宅など、様々な場所で切れ目なくパソコンを使用できる環境が効果的と考えています。

災害や感染症の発生等による学校の臨時休業時等においても、ICTを活用することで全ての生徒の学びを保障できるよう、進めて行きます。

学びの保障

クラウドサービスの活用

